

論文

生涯学習施設と地域をつなぐために (I)

——静岡市北部生涯学習センター美和分館の利用状況と意識調査から——

阿部 耕也*, 小澤 拓真**

1. 問題設定

本稿の目的は、平成25年度に静岡市北部生涯学習センター美和分館によって企画・実施され、静岡大学イノベーション社会連携推進機構・地域連携生涯学習部門が分析に協力した「アカデ美和と地域をつなぐアンケート」において収集されたデータをもとに、地域住民の生涯学習機会を提供する施設の利用実態、地域住民が抱く期待やイメージ等について検討することにある。

北部生涯学習センター美和分館が設置されているアカデ美和は、静岡市葵区美和地区（旧 美和村）に属する4学区の住民より「地域の世帯数・人口が増加するなか、それに対応した社会資本の整備や住民サービスは著しく立ち遅れている」という課題意識のもとに出された「旧美和村地区のコミュニティ推進の拠点となる学習・行政サービス・福祉等複合施設」を、という要望を受けて建設された。

地域住民の要望に応えるため、平成21年9月の開館以来、生涯学習・社会教育事業を実施してきたが、これまでの事業の企画は職員が利用者に接するなかで得た知識・経験・ニーズに基づいており、施設利用者以外のニーズの把握が出来ていないこと、統計的なデータとしてのニーズが把握しきれていなかったことなど、いくつかの反省点がある。また、利用者の平均年齢が高く、サークル存続等のため新規利用者の獲得が課題となっている。そこで、平成26年に5周年を迎えるにあたり、施設利用者だけでなく、幅広い年代層の地域住民へ社会教育学習及び生涯学習教育に関する意識調査を行い、上記に述べた課題の解決策を見出すため、地域住民向けのアンケート調査を企画・実施することとした。

アンケート調査の企画にあたっては、平成20年度に静岡市葵生涯学習センターで実施された調査⁽¹⁾が参考となり、同調査の企画・分析に協力した静岡大学へ協力要請があった。担当した静岡大学イノベーション社会連携推進機構・地域連携生涯学習部門の協力のもと、調査票が作成された後、美和分館によって配布・回収・データ入力が行われた。データ分析にあたっては、美和分館の望月勇平センター長から静岡大学に「地域課題解決支援プロジェクト⁽²⁾」への応募というかたちで再度協力要請があり、データ集計・分析に協力し、調査を両者による共同作業として実施することとした。

2. 調査の概要

本調査の概要は以下の通りである。

(1) 調査の内容

<地域住民向け>

基本属性

[年代・性別・職業・家族構成・居住学区]

* 静岡大学イノベーション社会連携推進機構教授

** 北部生涯学習センター美和分館 アカデ美和 指定管理者（公財）静岡市文化振興財団

調査項目

- アカデ美和について [利用歴、利用目的及び未利用の理由、生涯学習センターへの満足度]
- アカデ美和以外の利用歴
- 生涯学習センターへのイメージ
- 興味のある学習分野について
- 参加可能時間帯について
- 求める広報ツールについて
- 生涯学習センターが力を入れるべきことについて

<児童・生徒向け>

基本属性

- [学年・性別・家族構成・居住学区]

調査項目

- アカデ美和について [利用歴、利用目的及び未利用の理由]
- アカデ美和以外の利用歴
- 興味関心について
- 生涯学習センターの事業の認知度について

(2) 調査設計

<地域住民向け>

- ・調査地域 安倍口・美和・足久保・松野学区
- ・調査対象 安倍口・美和・足久保・松野学区住民
- ・標本数 5,316戸（全戸調査）
- ・調査期間 平成25年9月1日～30日
- ・調査方法 安倍口・美和・足久保・松野学区自治会連合会会長を通じて、各町内・自治会会長へ配布及び回収を依頼

<児童・生徒向け>

- ・調査地域 安倍口・美和・足久保・松野学区
- ・調査対象 調査地域内に所在する小中学校に通う小学4年生以上の児童・生徒
- ・標本数 641人（全数調査）
- ・調査期間 平成25年9月1日～30日
- ・調査方法 調査地域内各小中学校へ配布及び回収を依頼

表1 回収結果

	配布数	有効回収数	有効回収率
近隣住民	5,316	1,815	34.1%
児童・生徒	641	583	90.9%

3. 調査結果

今回実施したアンケート調査は、地域住民向け・児童生徒向けの2種類である（調査票と結果概要は章末に添付）。本稿では地域住民向けアンケートの考察を主に行う。

(1) 回答者の属性

回答者の属性は以下の通りである。

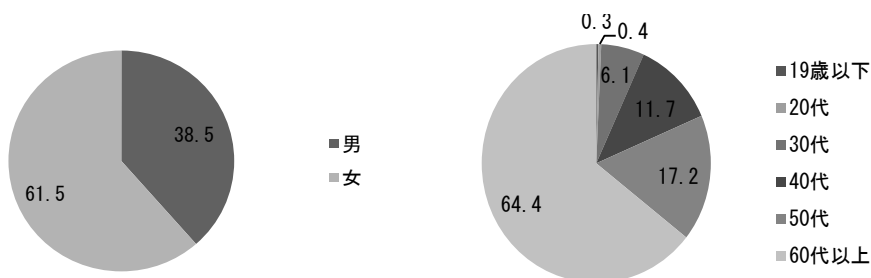


図1 回答者の性別

図2 回答者の年代

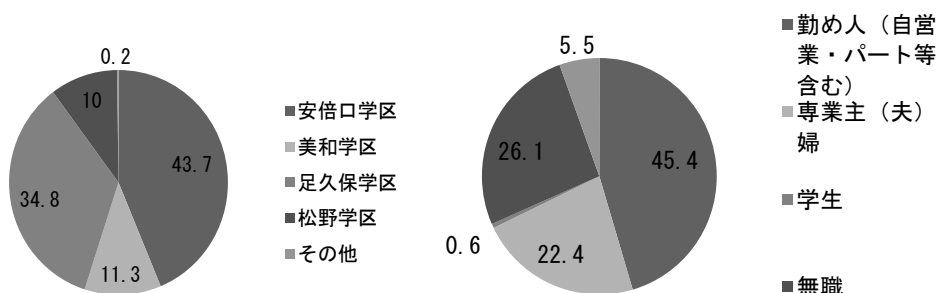


図3 回答者の居住学区

図4 回答者の職業・生活形態

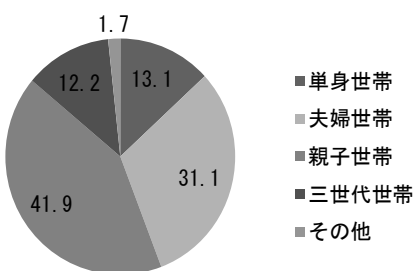


図5 回答者の家族構成

性別では、男性が4割弱、女性が6割強で、女性が15%ほど多い。年齢別では60代以上が6割強を占め最も多く、次いで50代が17.2%、40代が11.7%、30代が6.1%と続く。残念ながら20代以下についてはサンプルがほとんど得ることが出来なかった。居住学区は、安倍口学区が43.7%と最も多く、足久保学区34.8%、美和学区11.3%、松野学区10.0%と続くが、学区外からの回答が若干数得られた。家族構成別では、親子世帯が41.9%と最も多く、次いで夫婦世帯31.1%、単身世帯13.1%、三世帯世帯12.2%、その他1.7%と続く。

(2) 調査項目

<アカデ美和の利用経験>

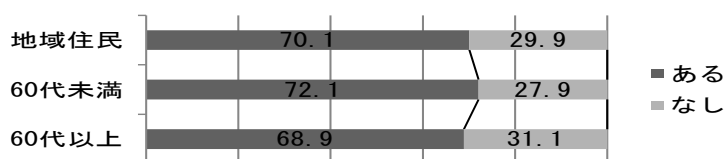


図6 アカデ美和の利用経験

アカデ美和の利用経験について尋ねたところ、全体では「ある」との回答が70.1%となっている。年代層別では大きな差は見られず、多くの地域住民に利用されていることが分かる。

<利用目的>

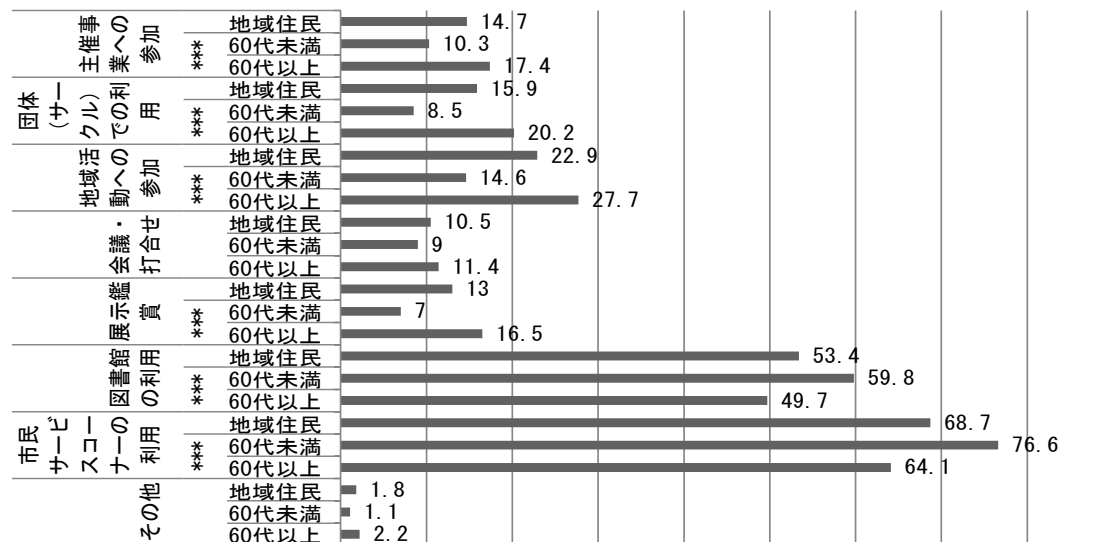


図7 アカデ美和の利用目的

アカデ美和の利用経験が「ある」と答えた被調査者を対象に利用目的について尋ねた。全体としては、「市民サービスコーナーの利用」(68.7%)が最も多く、次いで「図書館の利用」(53.4%)となっており、主たる利用目的となっている。生涯学習センターの貸室利用では、「地域活動への参加」(22.9%)、「団体(サークル)での利用」(15.9%)、「会議・打合せ」(10.5%)となっている。生涯学習センターが行う「主催事業への参加」は14.7%に留まった。

年代層別にみると、回答に差が見られるが、星印(*** 0.1%水準で有意 ** 1%水準で有意 * 5%水準で有意)がついている項目は、統計的に有意な差がみられたものである。「主催事業への参加」から「展示鑑賞」にかけての生涯学習センターの利用を目的として回答したのは総じて60代以上の層が高くなっており、「図書館の利用」、「市民サービスコーナー」の利用は全体としても総じて高いが、60代未満の層が利用の多いことが分かり、現状の生涯学習センターの主たる利用者層は60代以上の層であることが確認できる。

<アカデ美和を利用しない理由>

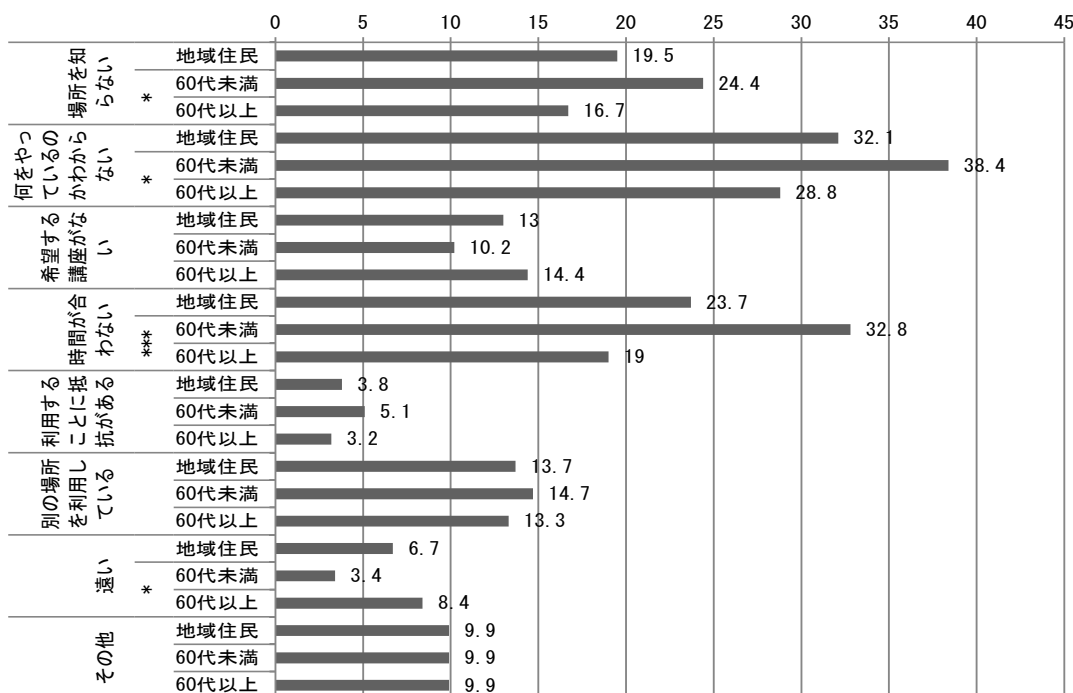


図8 アカデ美和を利用しない理由

アカデ美和の利用経験が「ない」と答えた被調査者を対象に未利用の理由について尋ねた。全体としては、「何をやっているのかわからない」（32.1%）が最も多く、次いで「時間が合わない」（23.7%）、「場所を知らない」（19.5%）といった回答が多く、かつ年代層で比較した際に統計的な有意差が見られている。

<北部生涯学習センター美和分館の管理・運営に対する満足度>

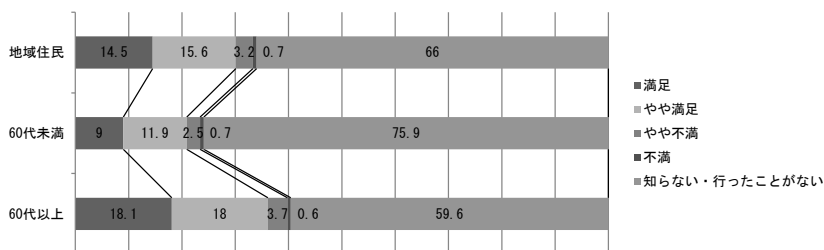


図9 北部生涯学習センター美和分館の管理・運営に対する満足度

北部生涯学習センター美和分館の管理・運営に対する満足度について尋ねた。総じて、「知らない・行ったことがない」の回答が最も多く、全体では66.0%に上る。利用経験が少ない60代未満の層と利用経験が多い60代以上の層で比較すると「満足」・「やや満足」の回答がそれぞれ9.1%、6.1%多く、「知らない・行ったことがない」の回答が16.3%少なくなっている。

複合施設「アカデ美和」は多くの地域住民に利用されていることがわかる反面、その主たる利用目的は、図書館や市民サービスコーナーの利用であり、大多数の地域住民にとっては生涯学習センター満足度に対して回答をするほどの利用を得られていない現状がある。多くの図書館・市民サービスコーナーの利用者に向けて、ニーズや課題意識にあった生涯学習センターの取り組みの実施・周知を強化していくことがまず必要であるとともに、「コンサート」をはじめ「わくわく劇場」や「アカデ美和まつり」などの来館を促すきっかけ

けとなるような事業企画を行い、老若男女が参加しやすい雰囲気づくりを醸成していく必要がある。あわせて、複合施設であるメリットを活かし、図書館という場を活用した広報の手法とそのため連携関係の構築を図る必要がある。アカデ美和を未利用の理由として最も多いものが「何をやっているのかわからない」というものである。「広報しずおか」を除けば、地域に対して複合施設内で独自の広報活動を行っているのが生涯学習センターのみであることを踏まえ、地域へ施設情報を伝えていくことは、生涯学習センターの活動だけでなく、アカデ美和全体の認知度向上へと繋がるものと考えられる。また、評価をした回答者のおよそ10%が「やや不満」・「不満」と回答しているという課題がある。

<アカデ美和以外の施設の利用経験>

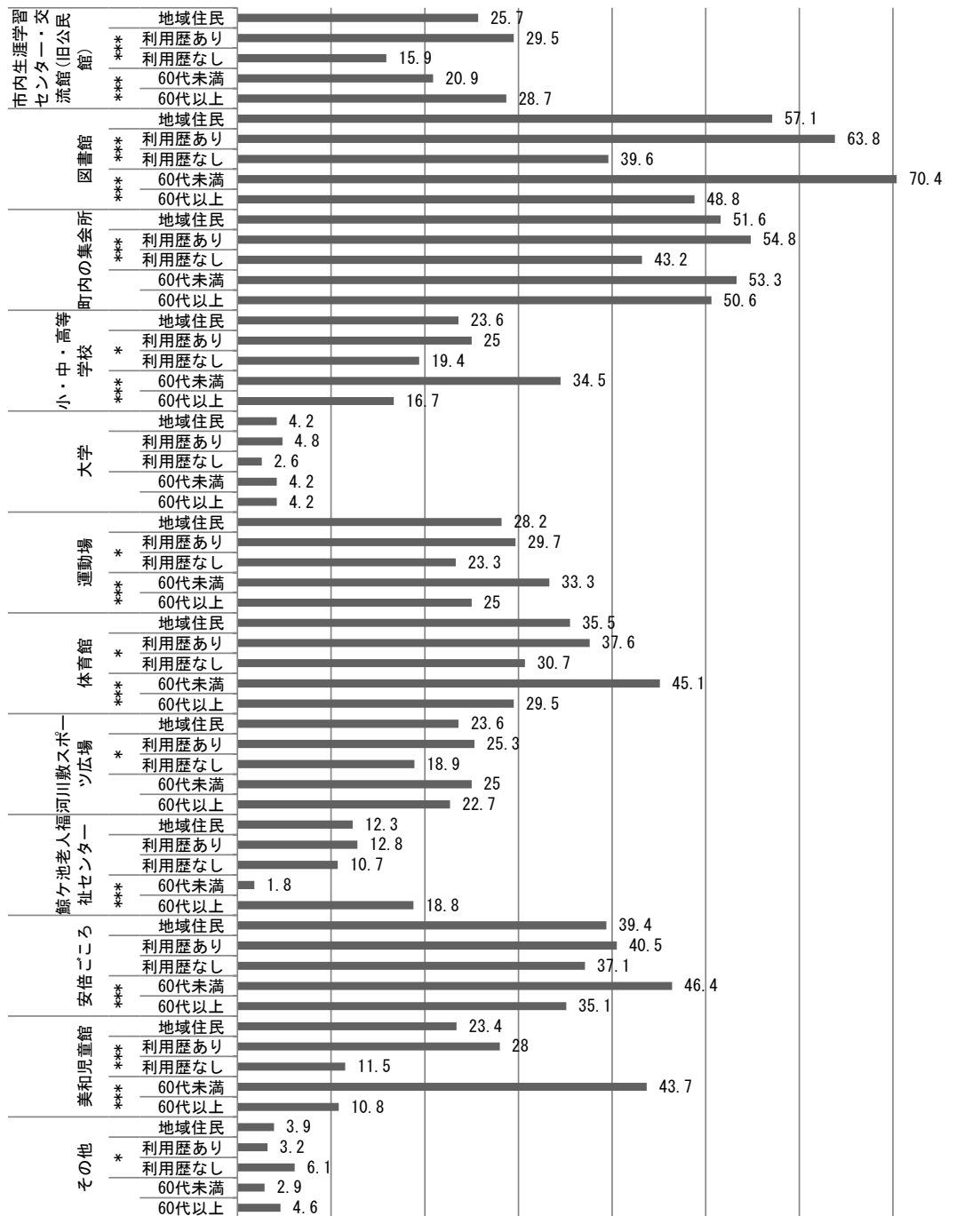


図10 アカデ美和以外の施設の利用経験

アカデ美和以外の利用経験について尋ねた。全体として最も多いのは「図書館」（57.1%）であり、次いで「町内の集会所」（51.6%）となる。美和地域周辺に設置されている「安倍ごころ」（39.4%）や西ヶ谷総合運動場をはじめとした「運動場」（28.2%）、「体育館」（35.5%）、「河川敷スポーツ広場」（23.6%）、「美和児童館」（23.4%）や「小・中・高等学校」（23.6）が中位を占めている。アカデ美和の利用経験のある層とない層で比較した場合、多くの項目で利用経験のある層がない層の数値を上回っており、「鯨ヶ池老人福祉センター」・「安倍ごころ」の項目を除いては、統計的な有意差がみられる。とはいえ、ここでみてきたような利用歴の有無による差が、利用したことで生まれた相違なのか、そもそもこういった施設を利用していることによりアカデ美和の利用に相違として表れているのか、この点について確認するためにはさらなる分析が必要となってくると思われる。しかしながら、現状でアカデ美和をはじめとするこうした施設を利用していない地域住民が、北部生涯学習センター美和分館や中央図書館美和分館を利用することを通じて、美和地域に限らず、市内の生涯学習活動・まちづくりの振興に繋がっていくものであるともいえ、アカデ美和単体の施設の利用率向上だけに留まらない意義であると言える。

また、各施設の設置目的、利用方法、立地・アクセスは様々であり、一様に生涯学習センターと比較することはできないが、図10にあるように年代層による施設の利用状況の差異がみられており、チラシの配架依頼等の広報活動や事業企画について示唆的である。今回のアンケートにおいて、「大学」が最も回答が少ないものとなったが、地域と市内各大学との物理的な距離の問題があると考えられる。大学との連携した講座を企画し、高等教育機関の有する高い専門性を活かした講座の実施を通じて、学びの機会の充実を図っていく必要がある。

<アカデ美和の施設イメージ>

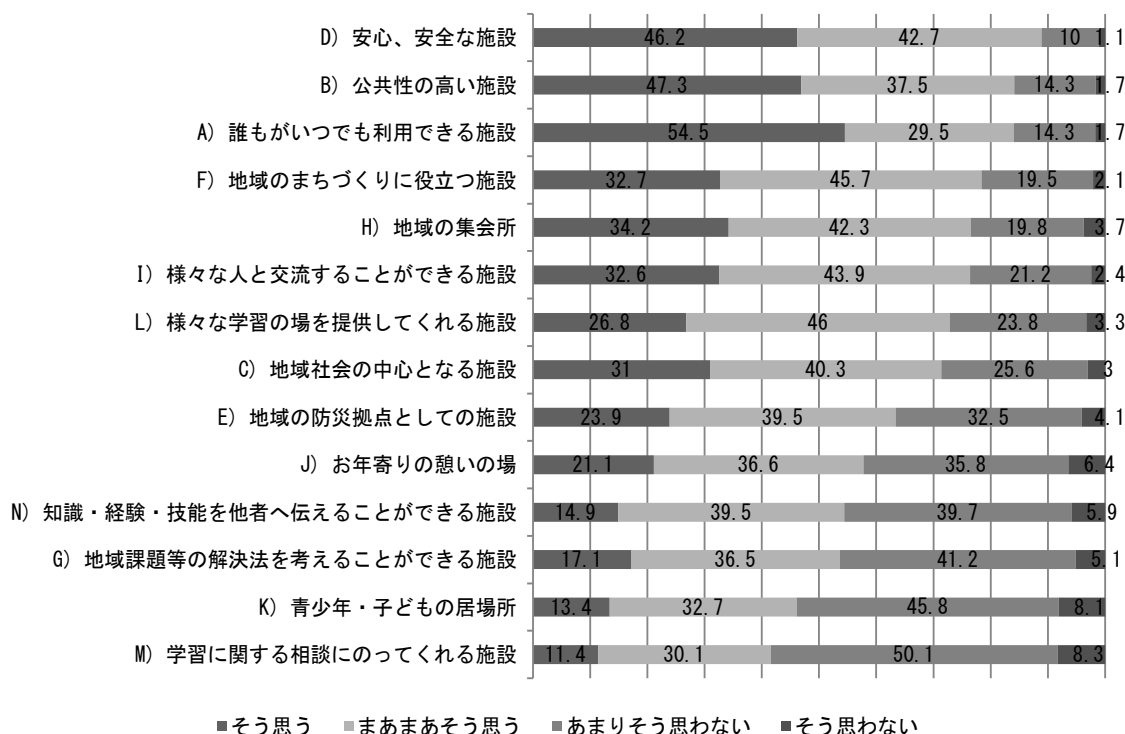


図11 生涯学習センターのイメージ

表2 アカデ美的のイメージ(属性別)

地域住民	そう思う・まあまあ思う	60代未満	そう思う・まあまあ思う	60代以上	そう思う・まあまあ思う
D) 安心、安全な施設	88.9	D) 安心、安全な施設	89.9	D) 安心、安全な施設	88.2
B) 公共性の高い施設	84.8	B) 公共性の高い施設	83	B) 公共性の高い施設	85.8
A) 誰もがいつでも利用できる施設	84	A) 誰もがいつでも利用できる施設	81.9	A) 誰もがいつでも利用できる施設	85.3
F) 地域のまちづくりに役立つ施設	78.4	F) 地域のまちづくりに役立つ施設	80.3	I) 様々な人と交流することができる施設	79.4
H) 地域の集会所	76.5	H) 地域の集会所	78.2	F) 地域のまちづくりに役立つ施設	77.2
I) 様々な人と交流することができる施設	76.5	L) 様々な学習の場を提供してくれる施設	73.1	O) 地域社会の中心となる施設	75.8
L) 様々な学習の場を提供してくれる施設	72.8	I) 様々な人と交流することができる施設	71.2	H) 地域の集会所	75.3
C) 地域社会の中心となる施設	71.3	J) お年寄りの憩いの場	65.8	L) 様々な学習の場を提供してくれる施設	72.6
E) 地域の防災拠点としての施設	63.4	C) 地域社会の中心となる施設	64.6	E) 地域の防災拠点としての施設	64.3
J) お年寄りの憩いの場	57.7	E) 地域の防災拠点としての施設	62.1	G) 地域課題等の解決法を考えることができる施設	55
N) 知識・経験・技能を他者へ伝えることができる施設	54.4	N) 知識・経験・技能を他者へ伝えることができる施設	56.5	N) 知識・経験・技能を他者へ伝えることができる施設	52.8
G) 地域課題等の解決法を考えることができる施設	53.6	G) 地域課題等の解決法を考えることができる施設	51.6	J) お年寄りの憩いの場	52.4
K) 青少年・子どもの居場所	46.1	K) 青少年・子どもの居場所	48.9	K) 青少年・子どもの居場所	44.1
M) 学習に関する相談にのってくれる施設	41.5	M) 学習に関する相談にのってくれる施設	38.4	M) 学習に関する相談にのってくれる施設	43.8

「美和分館をどのような施設だと思うか」を15項目別に「そう思う」から「そう思わない」までの4件法で尋ねた。「その他」を除く14項目について、「そう思う」・「まあまあ思う」を合算した数値の大きい順に並べたグラフと「そう思う」・「まあまあ思う」の数値を合算し、全体・年代層別に数値の大きい順に並べた表である。年齢層に関係なく「安心・安全な施設」・「公共性の高い施設」・「誰もがいつでも利用できる施設」・「地域のまちづくりに役立つ施設」という項目が上位にきている反面、「知識・経験・技能を他者へ伝えることのできる施設」・「地域課題等の解決法を考えることのできる施設」・「青少年・子どもの居場所」・「学習に関する相談にのってくれる施設」の項目は下位に集まっている。

中位の項目に目を向けると年齢層によって差異が見られる。まず、「お年寄りの憩いの場」の項目に目を向ける。60代未満の層の「そう思う」・「まあまあ思う」の数値の合算で65.8%に上るが、60代以上の層だと52.4%にとどまっている。次に「様々な人と交流することが出来る施設」・「地域社会の中心となる施設」を見ていく。「様々な人と交流することが出来る施設」・「地域社会の中心となる施設」ともに60代以上の層と60代未満の層では、60代以上の層の方が上位に位置しており、10%程度の差がみとれる。

施設の設置目的である「市民の自発的な学習活動を支援することにより、学習活動を通じて地域の交流及び連携を図り、もって市民主体のまちづくりを推進する」ことに関連する「様々な人と交流することが出来る施設」や「知識・経験・技能を他者へ伝えることのできる施設」といった項目が中位に位置し、施設本来の役割を果たすべく生涯学習センターが実施している活動が地域住民へ十分に浸透しているとは言い難い。未利用の理由で「何をやっているのかわからない」との回答が最も多かったことにも通じるが、生涯学習センターの情報発信に力を入れていくと同時に、施設本来の役割に立ち返り、事業の実施をすることが重要である。また、「学習に関する相談にのってくれる施設」が一番低い数値であったことに対しては、学習相談会の実施や職員の情報収集およびスキルアップを図りたい。また、60代未満の層にとっては、「お年寄りの憩いの場」としてのイメージが60代以上の層と比べ相対的に強いことが、こうした世代の生涯学習センター利用が低い一因とも推測できる。まずは、参加しやすい講座をきっかけとして来館しやすい雰囲気づくりを行うことが重要だと考えられる。

<学習ニーズ：興味のあるテーマ>

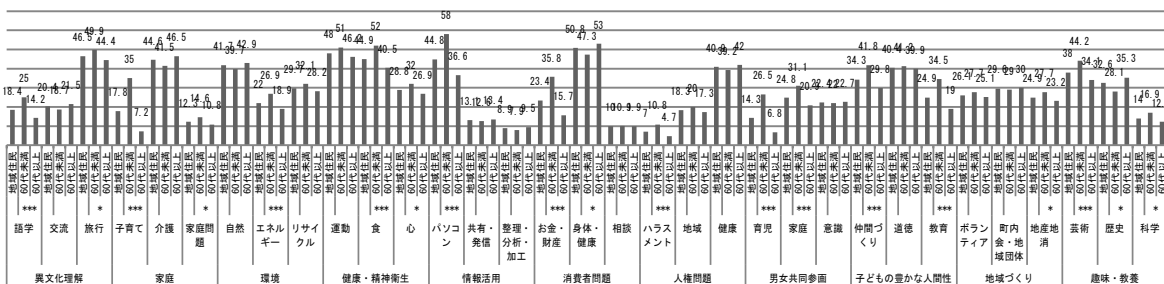


図12 学習ニーズ：興味のあるテーマ

興味関心について尋ねた。最も多いのは「健康」、「運動」、「旅行」、「食」、「パソコン」に関する分野である。年代層別に比較したときに、ほとんどの項目で60代未満の層が60代以上の層を上回っているが、大きな差異が見られるのは60代未満の層で「パソコン」や「語学」といったスキルアップにつながる項目、「子育て」、「育児」、「仲間づくり」、「お金・財産」、「旅行」、「エネルギー」、「リサイクル」といった実生活に直結してくる項目と「芸術」分野である。

表3 生涯学習センターの利用希望日時

		月	火	水	木	金	土	日
午前（9時～正午）	地域住民	28.7%	26.3%	27.4%	25.9%	26.4%	35.9%	37.6%
	60代未満	21.4%	20.6%	21.4%	19.8%	19.8%	44.6%	50.4%
	60代以上	33.9%	30.3%	31.6%	30.2%	31.0%	29.7%	28.6%
午後（1時～5時）	地域住民	26.3%	26.8%	26.9%	26.0%	26.0%	36.6%	36.2%
	60代未満	20.4%	19.2%	20.4%	19.4%	19.0%	49.0%	49.2%
	60代以上	30.5%	32.2%	31.6%	30.7%	30.9%	27.8%	26.9%
夜間（6時～9時）	地域住民	23.0%	24.1%	24.5%	24.7%	25.5%	26.0%	22.3%
	60代未満	33.8%	35.0%	35.6%	36.4%	37.4%	40.0%	33.8%
	60代以上	15.3%	16.4%	16.6%	16.4%	17.0%	16.0%	14.1%

「生涯学習センターを利用する場合に都合の良い時間帯」について尋ねた。年代層別に都合が良いと答えたパーセンテージを示したものが、表3である。60代以上の層が生涯学習センターの主たる利用者層であることは先に述べたとおりであるが、この表が示すように、60代以上の層は、60代未満の層と比較した際に、平日午前・午後を「都合が良い」と回答する率が一貫して高い。これに対し、60代未満の層では平日夜間及び土日（午前～夜間）を都合が良いと回答する率が高いことがわかる。

表4 生涯学習センターの主催講座実施時間帯（平成24・25年度）

		月	火	水	木	金	土	日	計
午前（9時～正午）	実施回数	0回	21回	7回	27回	9回	39回	19回	122回
	比率	0.0%	9.8%	3.3%	12.6%	4.2%	18.2%	8.9%	57.0%
午後（9時～5時）	実施回数	0回	1回	37回	4回	12回	10回	1回	65回
	比率	0.0%	0.5%	17.3%	1.9%	5.6%	4.7%	0.5%	30.4%
夜間（6時～9時）	実施回数	0回	11回	8回	3回	3回	2回	0回	27回
	比率	0.0%	5.1%	3.7%	1.4%	1.4%	0.9%	0.0%	12.6%
計	実施回数	0回	33回	52回	34回	24回	51回	20回	214回
	比率	0.0%	15.4%	24.3%	15.9%	11.2%	23.8%	9.3%	100%

表4は、北部生涯学習センター美和分館が平成24年度・25年度における講座を実施した時間帯の回数の総計である。平日午後の時間帯で水曜日の比率が高くなっているが、これは「高齢者学級 みのり大学美和学級」

を年18回開催していることによるところが大きい。また、月曜日は、静岡市生涯学習施設条例に定められている休館日となるため、講座の開催はこれまで行っていない。

表4から見てくる生涯学習センターの実態として、講座実施時間帯は、主として午前中の開催が過半数を占めており、その反面、夜間の開催が低くなっている。表3をふまえれば、こうした実態が、利用目的や未利用の理由を年代別で比較したときに、60代以上の層の利用目的では「主催講座への参加」という回答が高く、60代未満の層の未利用の理由では「時間が合わない」という回答が高くなっているものと考えられる。また、土日午前を中心に児童・生徒、親子、男性向け講座を実施することが多いため、この時間帯の比率も高くなっているが、こうした時間帯にこの対象者層向けの講座を実施することの有効性がアンケート調査によって裏付けられるものであると考える。新たな層の利用者を拡充するためには、引き続き対象に見合った時間帯・ニーズを活かし企画する必要がある。

<講座の情報源・広報媒体>

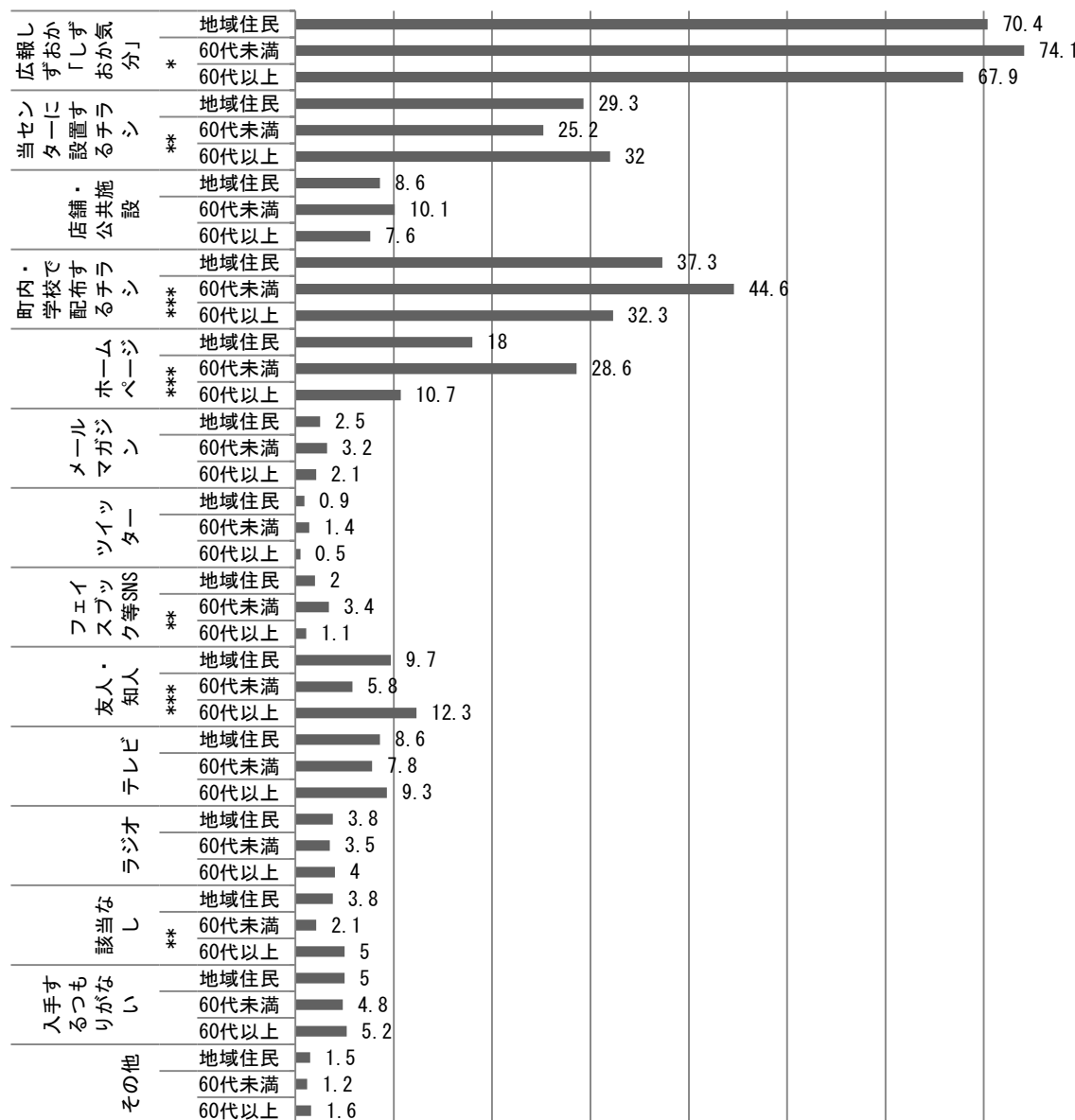


図13 講座情報を得る際に利用したい広告媒体

「講座情報を得る際に利用したい広告媒体」について尋ねた。圧倒的に「広報しずおか」（70.4％）を挙げる回答者が多く、次いで「町内・学校で配布するチラシ」（37.3％）、「当センターに設置するチラシ」（29.3％）、「ホームページ」（18.0％）と続く。年代層別にみていくと、60代未満の層では「広報しずおか」、「町内・学校で配布するチラシ」、「ホームページ」、60代以上の層では「当センターに設置するチラシ」、「友人・知人」においてそれぞれ対比させた際に多くなっている。

全体的にみても「広報しずおか」は市民の情報入手の媒体として定着しており、今後も必要不可欠な広報媒体と言える。また、チラシの配布方法は各種あるが、チラシでの広報も情報をわかりやすく掲載する等の改善を図りながら、今後も積極的に活用していきたい。しかしながら、「広報しずおか」や「町内会や学校で配布するチラシ」は町内会等を通じて、自動的に配布され積極的な意図を持たずとも目にすることができるという面もあるため、生涯学習センターの事業に現在興味・関心をもたない住民に来館してもらうには、利用経験のある被調査者の満足度を高め、家族や友人による「口コミ」から生涯学習センターで開催している講座等の情報を得る機会が増え、利用経験の少ない若年層の市民の獲得に繋げていくことが重要である。また、「ホームページ」を講座情報源に求める割合が60歳以上の層より60代未満の層が17.9％高く、若い世代へのインターネットでの情報提供は今後さらに有効であると考えられる。

<美和地域の生涯学習活動・文化活動をさらに活性化させていくために力を入れるべき事柄>

「今後美和分館がどのようなことに力を入れるべきか」を尋ねた。最も多いのは「講座に関する情報を得やすくすること」（53.1％）であり、次いで「主催講座の内容を充実させること」（37.8％）、「地域のまちづくりに対して積極的に関わる」（32.0％）、「幼・保・小中学校や町内会と連携を深めること」（31.9％）、「町内会・地域団体の活動に積極的に関わる」（30.5％）、「生涯学習・文化団体の情報を得やすくすること」（30.3％）と続く。年代層別に比較すると「主催講座の内容を充実させる」、「幼・保・小中学校や町内会と連携を深めること」においては、10％以上60代以上の層に比べ、60歳未満の層で多くなっている。

「講座」をはじめ「情報を得やすくすること」に多くの回答があったことは、生涯学習センターのイメージで「学びの場」、「交流機会の場」としての印象が弱いことや、未利用の理由として挙げられた「何をやっているのかわからない」といったことへも繋がっているものと思われる。今後、地域住民の求める広報媒体での結果を参考しながら、男女共に「情報」と「市民」の距離を縮めていく必要がある。60代未満の意見からは、幼・保・小中学校や町内会と生涯学習センターとの連携に力を入れ、子どもの教育に関わっていくことを求められており、児童・生徒向けのアンケート結果を参考にしながら、こうした世代の講座にも力を入れて取り組んでいくことが重要である。

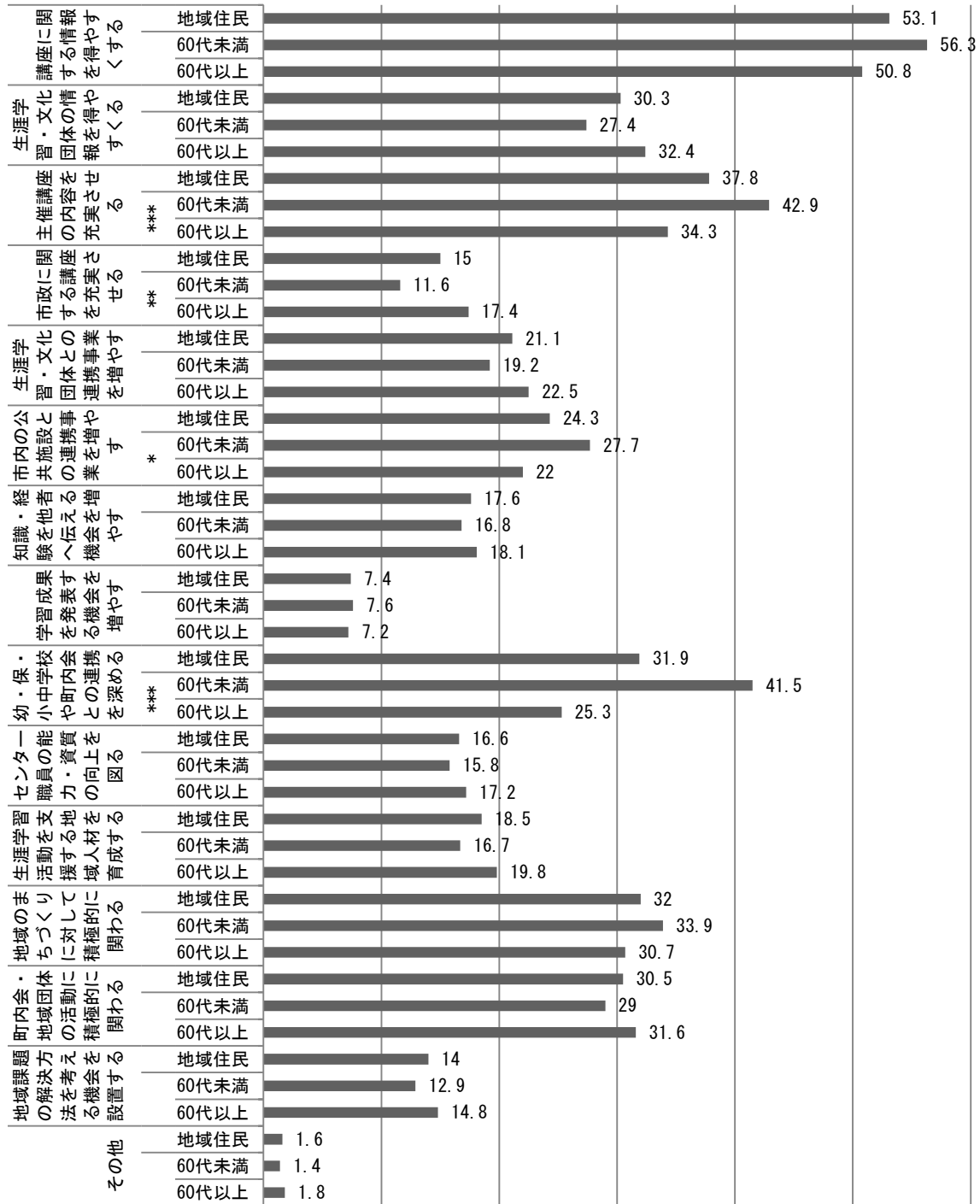


図14 今後美和分館が力を入れるべき事柄

4. 生涯学習施設のイメージと利用歴

生涯学習センターのイメージについては前節でみてきたが、ここでは施設イメージが実際に利用したことがあるかどうかでどのような違いがあるのかを検討する。

(1) 利用歴の背景要因

前節でみてきたように、利用していない理由については「何をやっているのかわからない」「時間が合わない」「場所を知らない」「別の場所を利用している」「希望する講座がない」などが挙げられていたが、施設が生活

圏に入っていないながら利用しないという選択の背景には、その地域住民のもつ施設イメージがあると推測できる。この点を確かめるために、本節では利用歴別の施設イメージをみていく。

利用歴と施設イメージのクロス集計結果を以下に示す。

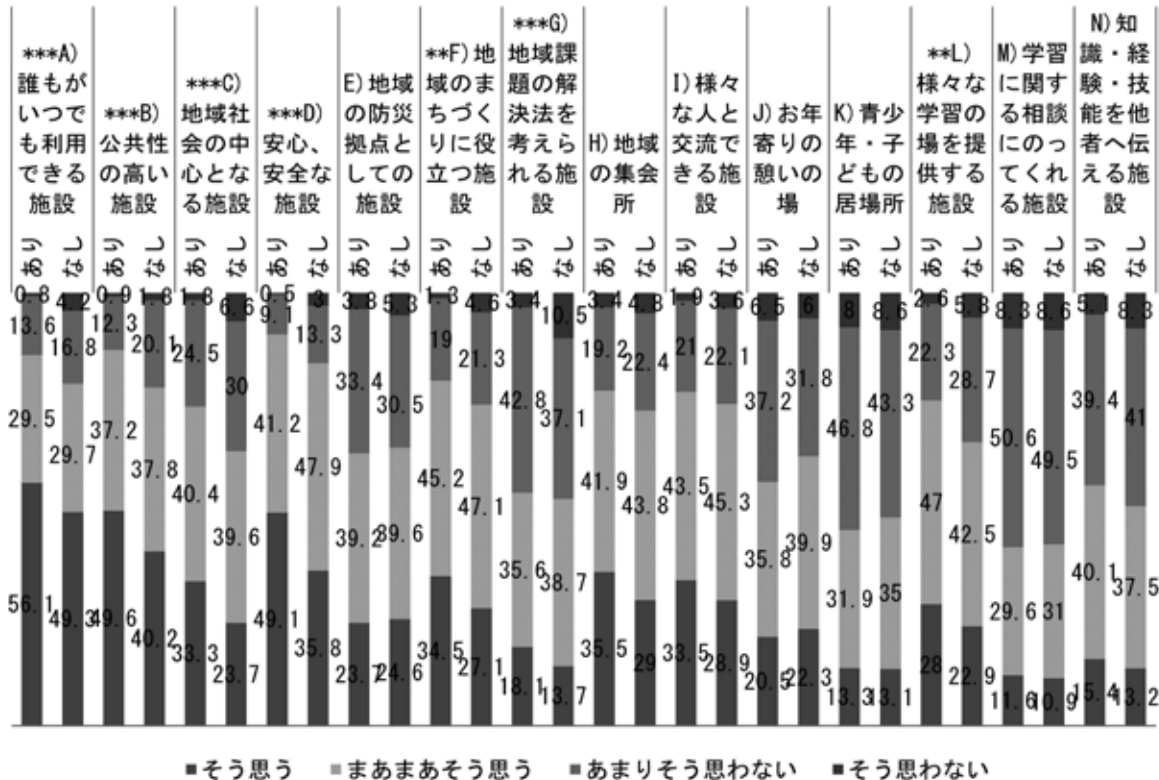


図15 施設イメージ（利用歴別）

(2) 利用歴と施設イメージのクロス分析

図15にみるように、ほとんどの項目で利用歴の有無により回答率に差があるが、星印（*** 0.1%水準で有意 ** 1%水準で有意）がついている項目は、統計的に有意な差がみられたものである。「誰でもいつでも利用できる施設」「公共性の高い施設」「地域社会の中心となる施設」「安心、安全な施設」「地域課題の解決法を考えられる施設」の諸項目で、利用歴がある方が、ない方より顕著にそうしたイメージを支持しているがわかる。また、「地域のまちづくりに役立つ施設」「様々な学習の場を提供する施設」についてもその傾向が見られる。「誰でもいつでも利用できる施設」「公共性の高い施設」および「安心、安全な施設」という施設イメージは、そもそも「そう思う」と「まあまあそう思う」を足した支持率が高く、その中でも利用歴があるグループには特にそのイメージが支持されており、誰でも、安心して利用できる施設として受け入れられているといえよう。

「地域社会の中心となる施設」「地域課題の解決法を考えられる施設」「様々な学習の場を提供する施設」という施設イメージは、全体の支持率としてそう高くはないものの、利用歴がある被調査者には支持されており、地域づくり・生涯学習の拠点として認識されていることが推測される。

それに対し、「様々な人と交流できる施設」「青少年・子どもの居場所」「知識・経験・技能を他者へ伝えることのできる施設」「学習に関する相談にのってくれる施設」というイメージについては、全体的に支持率が低だけでなく、利用歴のある人が施設を実際利用するなかでも実感できていない項目と考えられ、地域住民の積極的な学習・交流を通じた相互的な学びあいを支援する生涯学習施設として検討すべき課題であるといえる。

利用歴があるなしにかかわらず、生涯学習センターとして、若年層に対しては、幅広い年代層を対象にした活動が行われていること、交流の場として若者の参加が待たれていることを知ってもらい、壮年・高齢者層に対しては、地域づくりの拠点としての側面もあることを認識してもらうことが必要であるとする。

ともあれ、ここでみてきたような利用歴の有無に対応したこうした差が、利用したことで生まれた相違なのか、そもそも施設に関してそうしたイメージをもたない人は施設を利用しようとならないのか、この点を確認するためには、さらなる分析および児童・生徒への調査との比較対照（あるいは継時的な追跡調査）が必要になってくる。これについては稿を改めて検討することとしたい。

5. 生涯学習施設のイメージの要因分析

調査では地域住民が施設に対して抱くイメージについて尋ね、これまで示したような論点をまとめたが、全体の傾向と属性別の比較ならびに利用歴の有無を軸とした分析にとどまった。地域住民がどのような視点で施設をながめ、また評価しているかは、生涯学習センターのイメージにかかわる14の項目がそれぞれどのような内的関連を持ち、どのような評価軸・要因があるのかを検討する必要がある。今回は14項目について因子分析を行うことによってこの課題に依って行く。

(1) 因子の抽出

最初に施設イメージ14項目の平均値、標準偏差を算出した。（「そう思う」から「そう思わない」までの選択肢にそれぞれ4～1の数値を与えた。）

表5 施設イメージの項目内容と平均値・標準偏差

	平均値	標準偏差
Q9A 誰もがいつでも利用できる施設	3.37	.787
Q9B 公共性の高い施設	3.31	.752
Q9C 地域社会の中心となる施設	2.99	.829
Q9D 安心、安全な施設	3.34	.702
Q9E 地域の防災拠点としての施設	2.83	.837
Q9F 地域のまちづくりに役立つ施設	3.09	.773
Q9G 地域課題の解決法を考えられる施設	2.66	.819
Q9H 地域の集会所	3.07	.827
Q9I 様々な人と交流できる施設	3.07	.793
Q9J お年寄りの憩いの場	2.72	.867
Q9K 青少年・子どもの居場所	2.51	.825
Q9L 様々な学習の場を提供する施設	2.96	.800
Q9M 学習に関する相談にのってくれる施設	2.45	.802
Q9N 知識・経験・技能を他者に伝えられる施設	2.63	.805

次に14項目に対して最尤法・プロマックス回転による因子分析を行い、2因子構造を得た。回転後の最終的な因子パターンと因子間相関を表5に示す。なお、回転前の2因子で14項目の全分散を説明する割合は56.9%であった。

表6 美和分館（生涯学習センター）のイメージの因子分析結果

	第1因子	第2因子
	個別性・交流性	公共性・地域性
Q9M 学習に関する相談にのってくれる施設	.886	-.081
Q9K 青少年・子どもの居場所	.830	-.109
Q9J お年寄りの憩いの場	.816	-.184
Q9N 知識・経験・技能を他者に伝えられる施設	.719	.085
Q9G 地域課題の解決法を考えられる施設	.529	.271
Q9L 様々な学習の場を提供する施設	.484	.296
Q9H 地域の集会所	.458	.187
Q9I 様々な人と交流できる施設	.448	.296
Q9E 地域の防災拠点としての施設	.410	.333
Q9B 公共性の高い施設	-.203	.866
Q9D 安心、安全な施設	-.046	.762
Q9C 地域社会の中心となる施設	.091	.717
Q9A 誰もがいつでも利用できる施設	-.004	.661
Q9F 地域のまちづくりに役立つ施設	.242	.582
固有値	7.058	1.338
因子間相関	1	2
1	-	.711
2	.711	-

因子抽出法：最尤法 □回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

第1因子は9項目で構成されており、「学習に関する相談にのってくれる施設」「青少年・子どもの居場所」「お年寄りの憩いの場」「知識・経験・技能を他者に伝えられる施設」「地域課題の解決法を考えられる施設」など、職員が利用者個別に対応し、あるいは特定の対象を想定した施設、交流の場としての施設としてのあり方にかかわる項目が高い負荷量を示している。いくつかの要素が入っているため、性格づけは難しいが、この軸を「個別性・交流性」因子と命名しておく。

第2因子は5項目で構成されており、「公共性が高い施設」「安心、安全な施設」「地域社会の中心となる施設」「誰もがいつでも利用できる施設」など、公共的な、地域社会にとって有用な施設としてのあり方にかかわる項目が高い負荷量を示しており、「公共性・地域性」因子と命名する。

(2) 因子と質問項目との相関

各因子のもつ性格や背景を検討するため、因子と質問項目との相関をみることにする。因子分析のさい、因子得点を算出し新たな変数として保存した。この2因子に対応した変数と質問項目のいくつかとの相関係数を示したものが表6である。

表7 回答者の属性・質問項目と因子との相関係数

	第1因子 個別性・ 交流性	第2因子 公共性・ 地域性
Q1 年代	.004	.087**
Q6 アカデ美和の利用経験	.040	.152**
Q6_1_1 利用理由：事業への参加	.111**	.159**
Q6_1_2 利用理由：団体での参加	.019	.120**
Q6_1_3 利用理由：地域活動への参加	.043	.111**
Q6_1_5 利用理由：展示鑑賞	.069*	.088*
Q6_1_6 利用理由：図書館利用	.064	.106**
Q6_2_2 未利用の理由：何をやっているかわからない	-.117	-.152*
Q6_2_3 未利用の理由：希望する講座がない	-.152*	-.178**
Q6_2_8 未利用の理由：その他	.208**	.258**
Q7 満足度	.331**	.344**
Q13_1 講座に関する情報を得やすくする	.051	.084**
Q13_2 生涯学習・文化団体の情報を得やすくする	.067*	.122**
Q13_4 市政に関する講座を充実させる	.071*	.040
Q13_9 幼・保・小中学校や町内会との連携を深める	.071*	.039
Q13_15 その他の美和分館が力を入れるべきこと	-.058	-.071*

数値は Pearson の相関係数 ** 1%水準で有意 * 5%水準で有意

<回答者の属性項目>

性別、職業、家族構成については両因子とも有意な相関がみられず、有意な相関は「年代」と第2因子間に正の相関があったのみであった。すなわち、年代が高くなるほど「公共性・地域性」因子の得点が高まる傾向があり、美和分館（生涯学習センター）を「公共性・地域性が高い施設」として認識する傾向が強いといえる。

<アカデ美和の利用経験>

利用経験と第2因子「公共性・地域性」とは正の相関を示しており、利用経験がある方が利用していない方に比べ、美和分館を「公共性・地域性が高い施設」としてイメージしている。

<施設の利用理由>

利用理由の全8項目のうち、有意差がみられたのは表にあるように5項目である。「事業への参加」「展示鑑賞」については第1因子、第2因子とも正の相関がみられた。「事業への参加」「展示鑑賞」で施設を利用している人は、利用していない人に比べて「個別性・交流性」ならびに「公共性・地域性」という施設イメージを強く持つ傾向がある。「団体での参加」「地域活動への参加」「図書館利用」については第2因子のみ有意な正の相関があり、「公共性・地域性」という施設イメージを強く持っているといえる。

<施設を利用しない理由>

利用しない理由の8項目のうち有意差がみられたのは、表にあるように3項目である。「何をやっているかわからない」「希望する講座がない」についてはいずれも第1因子、第2因子とも負の相関がみられる。そうした理由で施設の利用経験がない人は、施設に対し、「個別性・交流性」「公共性・地域性」どちらのイメージも抱いていない傾向がある。

それに対して、利用しない理由として調査票に挙げた7項目以外の「その他」を選んだ人は、第1因子、第2因子とも正の相関がみられ、美和分館に対し「個別性・交流性」「公共性・地域性」という施設イメージを比較的強く持ちながら、何らかの理由で利用していないということになる。

<満足度>

「施設の管理・運営に関する満足度」については、回答のうち選択肢「知らない・行ったことがない」は管理・運営の満足度ではないため分析からはずし、満足度の高い選択肢順にポイントを与えて処理した。第1因子・

第2因子とも正の相関があり、施設の管理・運営に関する満足度が高い人は、美和分館に対し「個別性・交流性」「公共性・地域性」を強く感じているといえる。

＜美和分館が力を入れるべきこと＞

「生涯学習・文化団体の情報を得やすくする」「市政に関する講座を充実させる」「幼・保・小中学校や町内会との連携を深める」の3項目は「個別性・交流性」因子と正の相関がみられる。「生涯学習・文化団体の情報を得やすくする」という項目は「公共性・地域性」因子とも相関がみられ、「講座に関する情報を得やすくする」と合わせ、「誰もがいつでも安心して利用できる」「地域に密着した」施設というイメージを持っている。

（3）施設（生涯学習センター）イメージの構成要因

以上、因子分析を試みながら美和分館（生涯学習センター）のイメージの構成要因を見てきたが、いくつか論点をまとめておこう。

公民館などの生涯学習センターについては一般的に、公共性が高く、地域社会の中心となる、誰にでも開かれている施設というイメージがあるが、分析結果からもそれは判断・評価軸の一つ（「公共性・地域性」因子）として確かめられた。具体的な活動を通して施設を利用している人、施設の満足度が高い人、アカデ美和にもっと多様な情報提供を求める人は、「誰もがいつでも安心して利用できる」「地域に密着した」施設として生涯学習センターを認識し、またそうしたあり方を求めている。

第1因子として析出された評価軸は「個別性・交流性」因子であり、「学習に関する相談にのってくれる施設」「青少年・子どもの居場所」「お年寄りの憩いの場」「知識・経験・技能を他者に伝えられる施設」「地域課題の解決法を考えられる施設」など、個別に対応する必要がある施設、交流の場としての施設としてのあり方にかかわるものだった。これは、利用経験にはあまり影響されず、施設の管理・運営の満足度に左右され、また特定テーマの講座の開設や近隣諸組織との連携を求めるような、積極的な取り組みにかかわる因子となっている。一方「何をやっているかわからない」「希望する講座がない」という理由で施設を利用していないケースについても、負の方向で関係する軸でもある。

「公共性・地域性」因子が美和分館の取り組みの広さ、利用者へのオープンな度合に関係するものであるとすれば、「個別性・交流性」因子は取り組みの深さ、施設が支援する地域間の交流の密度にかかわる評価軸であると考えられる。美和地区住民による「地区のコミュニティ推進の拠点となる学習・行政サービス・福祉等複合施設」という期待に応えるためには、立場や考え方の異なる（現在未利用の）対象・範囲に向けた学習機会を拡充することが必要であるし、またコミュニティ推進のために、交流や伝達を通して地域の中心となるような事業を展開することも重要であり、両次元での取り組みがアカデ美和のイメージをよりよいものに変えていくと考えられる。

6. おわりに

これまで調査結果の一部を取り上げ分析・考察を進めてきたが、残された調査課題はまだ多く、地域住民向けのさらなる分析、児童・生徒向けの分析、ならびに共通の質問項目については両者の比較対象をする必要がある。分析の中で述べたように、これについてはまた稿を改めてまとめることにしたい。また、いくつかの課題・論点については、継続的に調査を実施することも検討する必要があるだろう。

今回の調査は、静岡市北部生涯学習センター美和分館（アカデ美和）が、複合施設として建設され学習機会・コミュニティ推進に関するハード面の充実を遂げたあとも、ソフト面の充実を目指して取り組んだ意欲的な事業であると評価できる。その取り組みに大学が関わり、両者の協力・連携のなかで、教育・研究・社会連携の質を高めることが大学としての目標である。冒頭で述べたように、今回は静岡大学の「地域課題解決支援プロジェクト」の立ち上げ時期と重なり、調査研究にとどまらないより広範囲の連携も両者の視野に入っている。

最後に、静岡市北部生涯学習センター美和分館の担当地域の関係者の方々、学校関係者、調査に協力いた

だいた住民、児童・生徒の皆さんにあらためて謝意を表したい。

注

- (1) 阿部耕也、望月雄司「公民館・生涯学習センターの利用実態とイメージ：静岡市葵生涯学習センター・アンケートを手がかりに」（『生涯学習教育研究』第13号、静岡大学生涯学習教育研究センター、3-12頁。2011年3月）
- (2) 平成25年度、静岡大学が立ち上げた「地域課題解決支援プロジェクト」は、地域社会から幅広く地域課題を公募し、地域と大学の連携による課題解決モデル事業を選定して大学として支援するものである。モデル事業以外にも、主な応募課題については地域に赴きヒアリングを行い、地域課題のデータベースを作成の上、学内外の研究室等に紹介し、課題解決を支援する。

平成25年度 北部生涯学習センター美和分館 アカデ美和と地域をつなぐアンケート

～北部生涯学習センター美和分館の利用状況及び意識に関する調査～

ご挨拶

こんにちは。静岡市北部生涯学習センター美和分館（愛称：アカデ美和）です。平成21年9月に開館し、地域の皆様のご協力をいただき、早いもので来年度には5周年を迎えます。

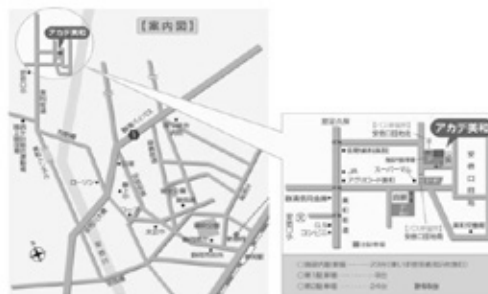
このアンケートは、北部生涯学習センター美和分館が今後の施設運営・事業企画等の参考にするため、地域の皆様の声をより広くお聞きすることを目的として、近隣自治会・町内会様、静岡大学イノベーション社会連携推進機構様のご協力のもとに実施するものです。地域の皆様とともに当館がさらに発展できますよう、アンケートへのご協力をお願い申し上げます。

アンケートのご提出について

ご記入いただいたアンケートは所属される町内会長様へ9月30日（月）までにご提出ください。

アンケートの結果について

アンケートの結果については、平成26年3月までに地域の皆様にお知らせさせていただく予定です。また、このアンケート結果は、当館の施設運営・事業企画等の参考資料、静岡大学における研究の資料としてのみ使い、他の目的に使用することはありません。



静岡市北部生涯学習センター美和分館 （アカデ美和）

指定管理者（公財）静岡市文化振興財団

〒421-2113 静岡市葵区安倍口団地5番1号

TEL：054（296）7122 FAX：054（296）7124

静岡市生涯学習センターホームページ <http://sgc.shizuokacity.jp/>

記入例

例1. あなたの年代に○をお付けください。

- ①19歳以下 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代以上

例2. あなたの好きな果物に○をお付けください。

- ① ぶどう ② キウイ ③ みかん ④ その他(りんご)

問1. あなたの年代に○をお付けください。

N=1815

- ①19歳以下5 ②20代7 ③30代109 ④40代210 ⑤50代309 ⑥60代以上1159 無回答 16

問2. あなたの性別に○をお付けください。

- ①男性38.5% ②女性61.5% (以下、単位は%)

問3. あなたのご職業に○をお付けください。

- ①勤め人(自営業・パート含む) ②専業主(夫)婦 ③学生 ④無職 ⑤その他
45.4 22.4 0.6 26.1 5.5

問4. あなたのご家庭の家族構成に○をお付けください。

- ①単身世帯13.1 ②夫婦世帯31.1 ③親子世帯41.9 ④三世帯世帯12.2 ⑤その他 1.7

問5. あなたのお住まいの学区に○をお付けください。

- ①安倍口学区 ②美和学区 ③足久保学区 ④松野学区 ⑤その他
43.7 11.3 34.8 10.0 0.2

問6. アカデ美和は平成21年9月に開館した北部生涯学習センター美和分館(以下、美和分館)、中央図書館美和分館(以下、図書館)、美和市民サービスコーナー(以下、市民サービスコーナー)からなる複合施設です。当施設をご利用になったことはありますか。いづれかに○を付け各設間にお答えください。

① ある 70.1	② ない 29.9
<p>問6-2A 利用目的に○をお付けください。 (複数回答可)</p> <p>① 生涯学習センター主催事業等への参加 14.7 ② ご自身が加入する団体(サークル)での参加 15.9 ③ 町内会・地域団体等が行う地域活動への参加 22.9 ④ その他の会議・打合せ 10.5 ⑤ 展示の鑑賞 13.0 ⑥ 図書館の利用(圖書の貸出、勉強での利用等) 53.4 ⑦ 市民サービスコーナーの利用(住民票等の発行) 68.7 ⑧ その他() 1.8</p>	<p>問6-2B ご利用のない理由に○をお付けください。 (複数回答可)</p> <p>① 施設・場所を知らない 19.5 ② 何が行われているのかわからない 32.1 ③ 参加してみたい講座がない 13.0 ④ 時間が合わない 23.7 ⑤ 利用することに抵抗がある 3.8 ⑥ 他の施設を利用している 13.7 ⑦ 遠い 6.7 ⑧ その他() 9.9</p>

問7. 美和分館の管理・運営に対する満足度についてあてはまるものに○をお付けください。(図書館、市民サービスコーナーを除く)

- ①満足 ②やや満足 ③やや不満 ④不満 ⑤知らない・行ったことがない
14.5 15.6 3.2 0.7 66.0

問7-2. 問7で選ばれた選択肢の理由をご記入ください。(ただし、⑤は除く)

有効パーセントではなく、パーセントで処理しています

- (講座に関すること 1.4 施設に関すること 3.3 運営に関すること 4.8
図書館に関すること 1.5 市民サービスコーナーに関すること 1.5 その他 3.3)

問8. これまでに学校教育以外で学びの場・地域づくりの場としてご利用になったことのある施設すべてに○をお付けください。(アカデ美和を除く)

- ①市内生涯学習センター・交流館(旧公民館) 25.7 ②図書館57.1 ③町内の集会所 51.6 ④小・中・高等学校 23.6
 ⑤大学4.2 ⑥運動場28.2 ⑦体育館35.5 ⑧河川敷スポーツ広場 23.6 ⑨鯨ヶ池老人福祉センター12.3
 ⑩安倍ごころ39.4 ⑪美和児童館23.4 ⑫その他 3.9

問9. 美和分館(アカデ美和の内、図書館・市民サービスコーナーを除く)をどのような施設だと思えますか。あてはまる数字に○をお付けください。

(①そう思う ②まあまあそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそう思わない)

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| A) 誰もがいつでも利用できる施設 | ① 54.5 ② 29.5 ③ 14.3 ④ 0.9 |
| B) 公共性の高い施設 | ① 47.3 ② 37.5 ③ 14.1 ④ 1.2 |
| C) 地域社会の中心となる施設 | ① 31.0 ② 40.3 ③ 25.6 ④ 3.0 |
| D) 安心、安全な施設 | ① 46.2 ② 42.7 ③ 10.0 ④ 1.1 |
| E) 地域の防災拠点としての施設 | ① 23.9 ② 39.5 ③ 32.5 ④ 4.1 |
| F) 地域のまちづくりに役立つ施設 | ① 32.7 ② 45.7 ③ 19.5 ④ 2.1 |
| G) 地域課題等の解決法を考えることができる施設 | ① 17.1 ② 36.5 ③ 41.2 ④ 5.1 |
| H) 地域の集会所 | ① 34.2 ② 42.3 ③ 19.8 ④ 3.7 |
| I) 様々な人と交流することができる施設 | ① 32.6 ② 43.9 ③ 21.2 ④ 2.4 |
| J) お年寄りの憩いの場 | ① 21.1 ② 36.6 ③ 35.8 ④ 6.4 |
| K) 青少年・子どもの居場所 | ① 13.4 ② 32.7 ③ 45.8 ④ 8.1 |
| L) 様々な学習の場を提供してくれる施設 | ① 26.8 ② 46.0 ③ 23.8 ④ 3.3 |
| M) 学習に関する相談にのってくれる施設 | ① 11.4 ② 30.1 ③ 50.1 ④ 3.3 |
| N) 知識・経験・技能を他者へ伝えることができる施設 | ① 14.9 ② 39.5 ③ 39.7 ④ 5.9 |
| O) 上記以外でありましたら、ご自由にご記入ください | 3.4 |

問10. 今、ご自身が興味のある数字すべてに○をお付けください。(複数回答可)

- | | |
|---------------|---|
| A) 異文化理解 | ①語学 18.4 ②交流 20.4 ③旅行 46.5 ④その他 0.8 |
| B) 家庭 | ①子育て 17.8 ②介護 44.6 ③家庭問題 12.3 ④その他 1.0 |
| C) 環境 | ①自然 41.7 ②エネルギー 22.0 ③リサイクル 29.7 ④その他 0.9 |
| D) 健康・精神衛生 | ①運動 48.0 ②食 44.9 ③心 28.8 ④その他 0.7 |
| E) 情報活用 | ①パソコン 44.8 ②共有・発信 13.1 ③整理・分析・加工 8.9 ④その他 1.3 |
| F) 消費者問題 | ①お金・財産 23.4 ②身体・健康 50.8 ③相談 10.0 ④その他 1.0 |
| G) 人権問題 | ①ハラスメント 7.0 ②地域 18.3 ③健康 40.9 ④その他 0.9 |
| H) 男女共同参画 | ①育児 14.3 ②家庭 24.8 ③意識 22.4 ④その他 1.0 |
| I) 子どもの豊かな人間性 | ①仲間づくり 34.3 ②道徳 40.4 ③教育 24.9 ④その他 0.7 |
| J) 地域づくり | ①ボランティア26.1 ②町内会・地域団体29.6 ③地産地消 24.9 ④その他 1.0 |
| K) 趣味・教養 | ①芸術 38.0 ②歴史 32.6 ③科学 14.0 ④その他 3.2 |
| L) その他 | 2.0 |

問11. 今後、生涯学習センターを利用する場合にご都合の良い時間帯**すべてに**○をつけてください。

	月	火	水	木	金	土	日
午前(9時～正午)	28.7	26.3	27.4	25.9	26.4	35.9	37.6
午後(1時～5時)	26.3	26.8	26.9	26.0	26.0	36.6	36.2
夜間(6時～9時)	23.0	24.1	24.5	24.7	25.5	26.0	22.3

問12. 美和分館が実施する講座の情報源として**利用したいものすべてに**○をお付けください。

- ①広報しずおか「しずおか気分」70.4 ②当センターに設置するチラシ29.3 ③店舗・公共施設 8.6
- ④町内・学校で配布するチラシ37.3 ⑤ホームページ18.0 ⑥メールマガジン2.5 ⑦ツイッター0.9
- ⑧フェイスブック等 SNS2.0 ⑨友人・知人 9.7 ⑩テレビ 8.6 ⑪ラジオ3.8 ⑫ない(①～⑪に該当しない) 3.8
- ⑬入手するつもりがない 5.0 ⑭その他 1.5

問13. 美和地域の生涯学習活動・文化活動をさらに活性化させていくために、美和分館はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。あてはまるもの**すべてに**○をお付けください。

以下、有効パーセントではなく、パーセントで処理しています

- ① 講座に関する情報を得やすくすること 39.3
- ② 生涯学習活動・文化活動を行う団体に関する情報を得やすくすること 22.4
- ③ 主催講座の内容を充実させること 28.0
- ④ 市政に関する講座を充実させること 11.1
- ⑤ 生涯学習活動・文化活動を行う団体との連携・協働した事業・講座を増やすこと 15.6
- ⑥ 市内の公共施設(教育施設・文化施設等)との連携した事業・講座を増やすこと 18.0
- ⑦ これまでの知識・経験を他者へ伝えることができる機会を増やすこと 13.0
- ⑧ 学習成果等を発表する機会を増やすこと 5.5
- ⑨ 子どもの教育・子育てに関わり、近隣幼・保・小中学校や町内会・地域団体等との連携や協力を深めていくこと 23.6
- ⑩ 生涯学習センター職員の能力・資質の向上を図ること 12.3
- ⑪ 生涯学習活動・文化活動を支援する地域の人材(指導者・コーディネーター)を育成すること 13.7
- ⑫ 地域のまちづくりに対して積極的な役割を果たすこと 23.7
- ⑬ 町内会・地域団体等が実施する活動に対して積極的に関わっていくこと 22.6
- ⑭ 地域課題等の解決法を考える機会を設置すること 10.4
- ⑮ その他() 1.1

問14. その他・ご意見ご要望、また具体的に実施してほしい講座等ございましたらご記入ください。

- (講座に関すること 2.7 施設に関すること 0.6 運営に関すること 2.3
 (図書館に関すること 0.7 市民サーブすコーナーに関すること 0.2 その他 1.9)

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

平成25年度 静岡市北部生涯学習センター美和分館
アカデ美和と地域をつなぐアンケート
～北部生涯学習センター美和分館の利用状況及び意識に関する調査～

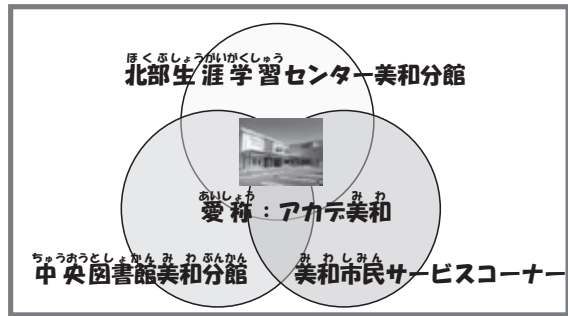
ごあいさつ

こんにちは。アカデ美和にある北部生涯学習センター美和分館です。このアンケートは、来年9月に開館5周年を迎えるにあたり、北部生涯学習センター美和分館とアカデ美和をより多くの人に使ってもらえるよう、参考にするためのアンケートです。

ご協力をお願いします。



「アカデ美和」は、北部生涯学習センター美和分館、中央図書館美和分館、美和市民サービスコーナーが一緒になった複合施設で平成25年9月に開館しました。「アカデ美和」という愛称は、大勢の市民の方が考えた案の中から選ばれたものです。



問1. あなたの学年に○をつけてください。

N=583

- ①小学4年生 104 ②小学5年生 93 ③小学6年生 130 ④中学1年生 83 ⑤中学2年生 85 ⑥中学3年生 85

問2. あなたの性別に○をつけてください。

無回答 3

- ①男 53.4% ②女 46.6% (以下、単位は%)

問3. あなたの住んでいる小学校区に○をつけてください。

- ①安倍口小学校区 35.6 ②美和小学区 16.8 ③足久保小学区 43.9 ④松野小学区 3.6

問4. あなたと一緒に住んでいる家族を教えてください。あてはまる数字すべてに○をつけてください。

- ①父親・母親 97.8 ②兄弟姉妹 84.7 ③祖父母 37.0 ④その他 3.6

問5. あなたは放課後や休日にどのような場所で過ごしていますか。アカデ美和以外であてはまる数字すべてに○をつけてください。

- ①市内の生涯学習センター・交流館（旧公民館）1.0 ②図書館 17.6 ③町内の集会所 2.2
④小・中・高等学校 10.5 ⑤大学 0.2 ⑥運動場 8.3 ⑦体育館 7.8
⑧河川敷スポーツ広場（安倍川沿いの広場）4.7 ⑨鯨ヶ池老人福祉センター 0.3 ⑩安倍ごころ 9.8
⑪美和児童館 12.4 ⑫自宅・友達の家 92.4 ⑬その他 13.3

問6. アカデ美和は、静岡市北部生涯学習センター美和分館（以下、生涯学習センター）、静岡市立中央図書館美和分館、美和市民サービスコーナーが一緒になった複合施設です。

アカデ美和へ行ったことはありますか。どちらかに○をつけてください。

- ①ある（→問7へ） 84.8 ②ない（→問8へ） 15.2

裏面へ続きます。

問7. アカデ美和へは、どのような理由で行きましたか。あてはまるもの数字すべてに○をつけてください。

- ① 生涯学習センターが行っている講座 (子ども厨房、フラワーアレンジメント、ふれあい交流会、セミのぬげがら博士、わくわく劇場、アカデ美まつり など) 71.8
- ② 自分が入っているサークルや団体の活動 (ダンス、歌、クラブ活動の集まり など) 3.1
- ③ 町内会・地域団体等が行う地域活動への参加 (子ども会やPTA活動 など) 2.9
- ④ ①～③以外の人の集まり・集会 4.3
- ⑤ 絵や写真などの作品展示を見るため 7.0
- ⑥ 図書館に行くため (勉強、本を読みほかに) 84.2
- ⑦ 市民サービスコーナーに行くため (お父さん・お母さんなどと一緒に証明書をもらいに) 3.3
- ⑧ その他 12.1

問8. アカデ美和へ行かないのはどのような理由ですか。あてはまるもの数字すべてに○をつけてください。

- ① アカデ美和の場所を知らない 35.2
- ② 何をやっているところかわからない 44.3
- ③ 参加してみたい講座がない 25.0
- ④ 行きたい時間にやっていない 12.5
- ⑤ アカデ美和へ行きたいと思わない (理由:) 26.1
- ⑥ アカデ美和以外の施設を利用している (地域の集会所、児童館など) 1.1
- ⑦ 遠い 30.7
- ⑧ その他 9.1

問9. あなたが興味を持っていること (好きなことや、生涯学習センターでやってみたいこと) を自由に書いてください。

教養の向上 5.7 趣味・稽古事 25.7 体育・レクリエーション 27.7
 (家庭教育・家庭生活 30.9 職業知識・技術の向上 2.6 市民意識・社会連帯意識 4.9)
 その他 20.9

問10. 以下の中で、生涯学習センターがやっていることを知っていますか。また、やった (行った) ことがありますか。あてはまるところに○をつけてください。

	やったことがある。	知っているが、やったことはない。	知らない。
例) サッカーを知っていますか。	○		
① いろいろな講座 (料理・工作など) をやっている。	16.0	31.7	52.3
② いろいろなサークル (団体) が活動している。 (歌・おどり・体操・俳句・絵画 など)	9.5	30.4	60.1
③ いろいろな人と交流する機会を作っている。	18.7	27.9	53.5

問11. その他、自由に意見などをかいてください。

生涯学習センターへの評価 6.0 生涯学習センターへの意見 19.3
 (図書館に関する内容 41.0 その他 36.1)

ご協力ありがとうございました!